

<2015年第58回J C J大賞 J C J賞>

J C J特別賞

【J C J大賞】

琉球新報 「普天間・辺野古問題」を中心にこの国の民主主義を問う一連の報道キャンペーン

(代表・松元剛琉球新報編集局次長兼報道本部長)

この間の全ての選挙で強く示された沖縄県民の総意を全く無視して、日米政府は辺野古の新基地建設に向けた強硬策を取り続けている。一連の新基地建設問題に琉球新報社は全局体制で取材にあたっている。応募作は、辺野古への移設作業を強行する日本政府の姿勢をきめ細かく報じ、この国の民主主義とは一体何なのかを問いかけている。それは日本国憲法と立憲主義を無視し戦争法案強行にひた走る安倍政権への厳しい警鐘の秀作でもある。

【J C J賞】

北海道新聞 佐竹直子記者 「獄中メモは問う 北海道綴方教育連盟事件」

太平洋戦争突入前の1940年から翌年にかけて道内55人の教員が治安維持法違反容疑で特高に逮捕された北海道綴方教育連盟事件。事件発生から約70年余の2013年、佐竹記者は教員の一人の「獄中メモ」を発見したのを機に、生き証人や家族、関係者を徹底取材。無謀な戦争の遂行を支えた「言論と教育への弾圧」の理不尽と非人間性に迫った。戦争法制強行と連動した教育への国家介入が強まる現代との相似性からも高く評価できる力作だ。

【J C J賞】

東京新聞 「3憲法学者の『違憲』明言スクープ」はじめ一連の安倍政権追及報道

「3・11」後紙面は他の大手紙と比べて輝いている。昨年度J C J大賞に輝いた「論点明示報道」-従来型の「客観報道主義」を脱却し、「原発」「改憲」「非正規労働」などで「ズバリ問題の核心に迫り、旗幟鮮明に報道姿勢を打ち出す」紙面が評価された。さらに「読者目線・市民目線」を貫く報道が目を引き、「さいたま市の『九条俳句掲載拒否』事件」など市民的自由に対する行政の圧力が次々明るみにした。読者との強い信頼関係が構築されつつある証拠だ。こうした蓄積の結晶が「衆院憲法審査会(6月4日)」で「自民党推薦を含む3人の憲法学者全員が『集団的自衛権行使は違憲』明言スクープ」を生んだ。編集局長から現場記者まで常に議論し、問題意識を研ぎ澄ますジャーナリストの職能の重要性を改めて提起した

【J C J賞】

梶田秀樹『“悪夢の超特急”リニア中央新幹線』 同報社

すでに2014年12月着工した総工費10兆円近い超大型プロジェクトは、東京からもっぱらトンネルで南アルプスを貫き名古屋・大阪に至るリニア新幹線である。一度立ち消えた計画をJ R東海が引き継ぎ、水涵れ、残土、電磁波、ウラン等、膨れあがる地元住民の疑問・不安に応えず情報を隠し、なぜかマスコミも追及しない中で強引に進行させている。フクシマを引き起こした原発建設もかくあったのではと思わせるこの間の事情を徒手空拳の著者が追及する。